

第1回野島活性化検討委員会議事録

■開催場所・日時

令和7年5月1日（木） 14時30分から16時00分まで
野島漁村センター 大会議室

■次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
(1) 野島活性化検討委員会について
(2) 野島活性化基本構想について
(3) 懸案事項（課題）の共有について
(4) 野島活性化基本構想の概要（案）について
- 4 その他
- 5 閉会

■出席者名簿（敬称略）

所属	役職名	氏名
野島地域自治会連合会	会長	松本 和郎
防府市立野島小・中学校	教諭	林 隆一
一般社団法人防府観光コンベンション協会	専務理事	犬塚 要二
防府商工会議所	専務理事	松田 和彦
防府市社会福祉協議会	常務理事	熊野 博之
防府市総合政策部	政策推進監	宮本 松典
防府市福祉部	部次長	伊藤 忍
防府市産業振興部	部次長	本間 良寛
防府市教育委員会教育部	部次長	松田 伸一

※欠席委員

防府市文化スポーツ観光交流部 部次長 田村 裕之

（開会）

教育部長あいさつ

野島は、本土から約15km、定期船で僅か30分、瀬戸内海国立公園区域にある自然豊かな島である。現在この野島では、島民の方の減少、高齢化、小・中学校の児童生徒数の減少もあり、早急な活性化の取組の検討が必要とされている。市では野島の活化は小・中学校を核と位置づけ来年度から茜島シーサイドスクールの受入対象を県内全域に拡充し、野島小中学校の児童生徒の増加と地域との交流を図っていく。今年度は、地域おこし協力隊の協力による島の魅力発信にも取り組む。

各分野での知見により更なる野島の活性化施策についてそれぞれの切り口で、幅広く自由な発想で検討していただいたい。また、委員会の中で忌憚のないご意見で活発なご審議をいただきたい。

議題（野島活性化検討委員会設置要綱第5条により委員長が進行）

議題1 野島活性化検討委員会について

【事務局説明】

野島活性化検討委員会設置要綱をもとに、目的及び設置理由について説明。

資料1をもとに茜島シーサイドスクールの拡充や地域おこし協力隊による野島の魅力発信の推進に加え、新たな策を講じていく旨を説明。

———質疑・応答———

(意見なし)

議題2 野島活性化基本構想について

【事務局説明】

資料1をもとに、茜島シーサイドスクールの受入対象を全県化とした拡充及び地域おこし協力隊の配置などに関するスケジュールを示す。また、学校を核とした活性化を目指すため、野島ならではの地域との連携、自然体験や伝統芸能の継承などの野島の魅力を生かした交流、宿泊施設の整備や体験学習、魅力ある校舎への改修などの基本構想を作っていく旨を説明。

———質疑・応答———

【A委員】野島のホームページや地域おこし隊のプロポーザルは、市で事業を実施していく予定であり、基本構想を策定するための委員会という位置付けは、最初の段階の大きな基本構想を作りあげるといいということか。

【事務局】そのとおり。

【A委員】基本計画や実行計画に代わっていくと考えられるが、あくまで、方針を今、教育総務課が中心に立てて、具体的な個別の基本計画についてはそれぞれの違う課が絡んでくるということでしょうか。

【事務局】方針は、教育総務課が中心に決定し、関係する課と連携しながら、施策を打ちたい。

【B委員】茜島シーサイドスクールの全県から受け入れるという話があったが、同じような取組をしているところは、防府市以外であるのか。競合相手のようなものがあるわけではないのか。

【事務局】県内では聞きたいことはない。山村留学であれば、あるが、海関係は初である。

【C委員】茜島シーサイドスクールの会長が委員にいないことについて、何か理由があるか。

【事務局】茜島シーサイドスクールの拡大を含めた野島の活性化について、自治会長がこの委員会に加入されていることから、自治会長と委員会の中で話を進めてよいと会長に確認済みである。

【D委員】学び直しというか、もう1回勉強しようかというイメージでいたのだが、これは義務教育過程なのか。

【事務局】義務教育であり、防府市内の学校、住所地のあるお子さんは本来通うべき学校があるが、野島の魅力を感じたい、学びたいということを市外にも展開していくもの。

【A委員】位置付けの確認だが、野島の活性化プロジェクトということで、色んな意見をくださいという話だったが、茜島シーサイドスクールは活性化の中の1個と考えて、観光とか福祉とか色んなものが出てきてもいいということか。それとも、茜島シーサイドスクールが大上段にあって茜島シーサイドスクールに全て関わる活性化を図るのか。

【事務局】メインとしては、茜島シーサイドスクールであり、拡充していく中に付随して、各委員の意見も反映させていきたい。

【D委員】同意見で、何が上位に来るかで、情報発信のやり方が変わるし、計画策定にあたって、グランドデザインを描くことが重要だ。ワークショップなどで、若い方や地元の意見を聴取するとよい。

議題3 懸案事項課題の共有について

【事務局説明】

資料2をもとに野島人口推移や公共施設の状況など、野島が抱える各種課題について説明。

——質疑・応答——

【C委員】野島小・中学校の児童・生徒数の令和3年度17名というのは、全国放送で学校を取り上げられたことによるものである。野島のことを皆さんが知って、全国から教育委員会の方に通学したいという話があつて増えた。現在、生徒数が減っているということは、学校としてPRがしっかりできていないということだ。学校の魅力が減ったわけではなくて、学校の魅力をもっと伝えないといけないのに不十分であるがために減っており、学校としての反省点があると思う。

【E委員】地元の課題としては、売店もないし、販売機もなく色々と困っていることがある。

【F委員】防府市内で全体に言えることだが、空き家が結構散見されていて、危険空き家的なものがあつて、そのあたりは何か方策がないのかなと感じた。

また、活性化というのは、例えば、産業であれば、商売がうまくいって経済がうまく回ることだが、野島の活性化とは、人口を増やすことなのか、交流人口を増やすことなのか。構想なり計画を作るにあたって、事務局としての考えは。

【事務局】交流人口で活性化を図っていきたいと考える。

【A委員】交流をとにかく活発にするということを主とした、野島の活性化に関して、物事を活性化させるには、その中で中心的に動かす人が必要だと思うが、ちょうどその中に地域おこし協力隊がいるが、これは今年の予算なのか。

【事務局】今年度予算である。

【A委員】地域おこし協力隊の役割について、事務局としてはどのように考えているのか。

【事務局】資料1に示しているとおり、地域おこし協力隊の方は、6月から募集を開始し、10月から配置を考えている。

それと並行して野島の特設サイトを立ち上げ、8月8日の野島の日に開設する。その前の7月1日号市広報で、茜島シーサイドスクールの募集時期などの先行公開を行う予定である。また、ホームページやSNS、X等を活用し、地域おこし協力隊が野島の魅力の発信を行う。

野島の地域の方と交流など、関係性を築き、シーサイドスクールのこどもたちとの交流を通じて、学校を核とした地域との交流から、交流人口の増加につなげられるようなことに関わってもらう予定である。

【A委員】結構たくさんやってもらうことがあるが、人数は1人か。また、野島に常駐してもらうのか。

【事務局】1人で、基本は、週1、2回来てもらうことを予定している。

【A委員】今、地域おこし協力隊と茜島シーサイドスクールについては、ある程度道筋がついていてということで、プラスアルファでこの委員会で考えていけばいいということか。

【事務局】そのとおり。

【C委員】野島に住まないと野島のいいところは分からないと思う。日頃ここに住んで、地域の方と話をして、野島のいいところが分かっていくのではないかな。

【委員長】場合によっては、住むための支援というものも必要ではないか。

【事務局】地域に住むのが、一番望ましいとは考えているが採用するに難しい面もある。

【B委員】地域おこし協力隊は、基本3年だが、基本構想も3年で考えるのか。

【事務局】分けて考える。

【B委員】現場に張り付いていないといけないし、地元の人に顔を覚えてもらわないといけない

と思う。どんな人が来るかは分からないが、しっかり地元に根差すのが大事だ。

【A委員】既存の公共施設の活用とあるが、地域おこし協力隊を住ませたものを施策としてそれを改修して、確保してあげるなど、野島にいれるような仕組みを作ってあげたらいい。

【F委員】魅力発信について、採用された方が全て SNS に長けているとは限らないので、講座を受けてもらうなどにあたっては、Y・B・A・S・Eなどを活用したらよい。

【D委員】再度確認だが、生徒数を増やしての活性化なのか、交流人口、定住人口増やしていつて、こどもたちが増えいくような島の活性化なのか。

【事務局】次回、その辺も改めて整理し、説明したい。

【D委員】極端な話、「港からみたら天満宮が見える」、「菅原道真が見ている島だ」、「そういう教育の島なんだ」というようなキャッチフレーズとか作っていくとか、ここで学ばせたいなというような親御さんの琴線に触れるようなところをやっていくかといけないと思う。

茜と天満宮の朱色で統一の色を作っていくとか、そういうところもグランドデザインに出てくると思う。

【A委員】パッと見てみんなが「こういうことを目的にしているんだな」とある程度分かりやすい見せ方をしてスタートした方がいい。例えば、交流を拡大させたいのであれば、その仕掛けとして、学ぶことをキーワードにして「ここに来たら、色んなことが学べる」、学校もこどもたちがわざわざ本土から来て、自然学習でもいいし、風土体験でもいいし、ここに来たら日常では味わえない学びができるなど、ある程度何かキーワードを作って、「こういう活性化が起きたら、こういうメリットがあるよ」という分かりやすい発信がよい。

【副委員長】野島の活性化プロジェクトということで資料をもらっているが、野島の活性化で色んな切り口があるとも思うが、例えば、今回、事務局の方が思っているのが野島小・中学校を核とする野島の活性化ということなので、基本的には先ほど出てきた教育をとくさういったところの分野をベースにそこから学校を活性化するということによって、島民の方とか、学校とかが関係するような交流人口を増やしていくことを、主な構想の方向性とと考えていくというようなスタンスということでよい。

【事務局】そういうスタンスではあるが、今回は、各方面の委員の幅広い意見を聴取したい。

【副委員長】教育というところで、まずは茜島シーサイドスクールの全県化をメインとして今日見てきました小・中学校をどういう感じで活用していくのか、そういったところも含めて色んなアイデアが出てくれば、いいのかなと思うが、その辺はあえて幅広く拾って進行しているということでは。

【事務局】茜島シーサイドスクールの県内拡充にあたっては、野島小・中学校で行われている体験活動についてもどんどんアピールしていきたい。今後さらに野島の魅力がアピールできるよう、野島ならではの学びの充実も含め、様々な話題を出してほしい。

（４）野島活性化基本構想の概要（案）について

【事務局】資料３をもとに野島活性化基本構想の概要を説明。

——質疑・応答——

【G委員】方針案のウに公共施設の活用や公共施設の再編が出ている。ウは、交流が拡大した後からついてくることかもしれないが、学校施設も含め、公共施設は古くなっているの、合宿だとかそういったことも含めて再編などは考える必要がある。ただ、学校が中心にあるので、制約などの整理が必要だ。

【A委員】野島の方は高齢化で、病気とかされて、本土で施設に入られている方もおられると思う。１日４便で、これは野島海運の経営のこともあるだろうが、可能であれば、本数を増やすな

ど、ここに住みやすい環境を整えることも活性において大事なことだと思う。

【F委員】茜島シーサイドスクールに来られているお子さんたちは、船代の補助があるのか。

【事務局】船代の半額補助を行っている。

【F委員】来年度から全県化にすることであれば、他市から来られることになり、JRの利用などの費用も掛かり、負担になると思う。船賃や鉄道運賃の補助なり、割引などでメリットを出せば、通う子も出てくるのではないかな。

【事務局】市外から来る場合、防府駅が起点と考えているが、防府駅から港までは、市のマイクロバスや地域クラブで購入予定のマイクロバスを活用してこどもの送迎を考えている。市外からとなると、防府駅まで来る交通費の負担というのは保護者もかなり掛かると思うので、今後、検討課題としてしっかり考えていきたい。

【C委員】学校の視点ではないが、野島に来る前に大津島、相島にいた。現在、どちらも学校がない。なぜ、学校、こどもがいなくなるかという、大きく3つ原因がある。1つは、その子たちが高校進学するときに本当に進学できるかという教育の面、2つ目、仕事の面、3つ目は医療の面。医者がいなければ、昼間だったら船が出るが、夜だったら高速船かヘリコプター、どちらにしても時間が掛かる。1分1秒を争うような、ちっちゃいお子さんとかいたら、「島はいいこともあるけど、何かあったときに怖い」ということで出ていく。そういう共通課題をどうにかしてやっていかないととなかなか島の人口は増えていかないと思う。

【A委員】議論する上で、この度野島の活性化は、特徴的な事業なので教育の方を考えていかなければならないが、こどもを増やそうとなった場合に、増やすための方策が活性化だとなってしまふ。見せ方を整理しないといけな。

【D委員】グランドデザインって言葉を使わせてもらっているが、課題解決したものをデザインというので、先ほどから出ている課題の洗出しは絶対必要だ。課題を解決しとかなないと、いい言葉だけで現実違うじゃないかというギャップが生じる。

【委員長】島外から来る人と、住まれている人では視点が違うと思うが、生活者としてここは気を付けてほしいというものはあるか。

【E委員】問題は、医師と店。自動販売機もなくなった。何年か前か医師がいたが、いなくなって、週2回、診療所に来ている。7年から8年前は店も1軒店があったが、なくなって漁協で少しあるけど、漁協も閉まると買えない。とくし丸が来るのをみんな待っているが、時化ると来ない。

(その他)

【C委員】数年前にここで市が実施したワークショップの結果が、市のホームページに出ている。

数年前からちょっと状況は変わっているが、いいところ悪いところを書いてあるので、参考になると思う。

(閉会)